

サンドペーパー

名古屋大学 森 下 一 期

紙ヤスリとも呼び、非常に手軽に使える道具です。ノコギリや金づちのようなしかりとした形をしていないので、道具と呼んでよいか、ちょっと迷いますね。しかし、金属製のヤスリ同様、細かな鋭い角をもった石状の刃が木材や金属を削っていくのですから、立派な道具です。今、削ると述べましたが、その結果として、細かな削りくずが出ているのです。ですから、紙ヤスリは、切削の道具といえることができます。

サンドペーパーには非常にたくさんの種類があります。あまりに身近にあったので、よく調べたことがありませんでしたから、これを書くことになってから、東急ハンズに行ってみました。そしたら、

1. ポリネットシート
2. 布ヤスリ
3. 洋紙ペーパー
4. フィニッシングペーパー
5. 耐水ペーパー（砥粒シリコンカーバイト）
（砥粒酸化アルミニウム）
6. エメリーペーパー
7. ラッピングフィルム

と並んでいました。最後の7.など、レンズを磨いたりするものですから（したがって砥粒の大きさは、ミクロン単位）、特殊なものと言えるかもしれません。また、砥粒にもいろいろな種類があるようです。サンドペーパーだから砂と思いついではいけませんね。なお、この種別は、台紙（布）の違いと、砥粒の違いによるものです。

番号は砥粒の大きさをあらわす

同じ種類の紙ヤスリにも、壺いもの、細かいものがあります。それを番号で示していま

す。大体の目安は

- # 40～100 木工の荒仕上げ（表面がザラザラだったり、凹凸があるものを整えるとき）
- # 120～240 木工の中仕上げ（一番よく使われる。形を整え、ある程度なめらかにするとき）
- # 320～400 木工の最終仕上げ（塗装前の木地を整えるとき、なめらかにしたいときに使う）

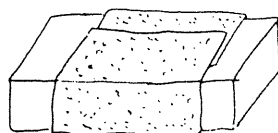
といったところです。金属やプラスチックの表面の仕上げになると、1000番台、何千番台のものが使われます。

分けるときは、破る

一枚では使いにくいので小さく分けますがそのとき、平気でハサミで切る人がいます。結果はすぐわかるでしょう。ハサミの刃がダメになってしまいます。紙ヤスリに折目をつけると比較的きれいに破れます。片隅からひき破るのでなく、きちんと二分づつします。

平に磨くときは当て木を使う

表面を平にするのは、本当はカンナなどで削りますが、紙ヤスリで磨くこともあります。その時は、図のように角材に紙ヤスリを巻いて使います。



最後に一言。砥粒面のザラつきがなくなるまで使いまらしましょう。一度使ったものも、まだ使えそうなものは箱に入れて保管しておくこと次に使えます。